

ブックレビュー

●研究開発事始—若者のための 16 章—●

杉田 清 著 1991 年 9 月
 (株)日鉄技術情報センター発行
 B6判, 273 頁, 定価(税込) 1,854 円

筆者は鉄鋼用耐火物研究のオーソリティで現在新日本製鉄のフェロー(常務待遇)。本書は筆者の豊富な経験に基づき新日鉄社内で若い研究者を対象に実施された何回かの講演会のテープを再編集したものである。このため本書には講演会の雰囲気が残っており、研究開発でぶつかる種々の問題点に関し筆者の考え方がいろいろな切口で語られている。

特に「基礎研究を考える」(第 14 章)では企業内基礎研究の効用、研究者の適性・評価・環境等に関する具体的な提言が盛込まれており研究開発の現場にいる者としても大変参考になる。また、「研究開発風土の日・欧米比較」(第 15 章)は筆者の豊富な体験に基づく含蓄ある言葉として興味深く読まされる。

研究開発で悩み多い若い研究者はもちろん、もう若くはない研究開発従事者にとっても研究開発のあり方を今一度考え直す上で是非一読をおすすめしたい。

(住友金属工業(株) 河野輝雄)

●編集後記●

バルセロナオリンピックが始まり、衛星放送にかじりついている毎日です。女子 200 m 平泳ぎでは、14 才の岩崎さんが史上最年少で金メダルを獲得され、今後の日本勢の活躍が期待されます。

スペインをよく“情熱の国”と形容しますが、その文化を見ると、明るさの中にこの国の歴史を反映した色彩(陰影)が感じられます。代表的な音楽であるフラメンコは、リズムカルなカスタネットにギターの旋律、そして歌と舞踏、静と動の中に深い哀愁が伝わってきます。これは、フラメンコのルーツがジプシ音楽にあるためと言われています。このような文化交流の足跡は、いたる所に見られます。近代ギター音楽の父ターレガの“アルハンブラの思い出”はトレモロの美しい調べが、多くの人々に愛されていますが、この“アラビア風”の建物と周囲の城壁は、この地での東西の戦の跡でもあります。その後のキリスト教の支配

は、多くの荘厳なゴシック寺院を今に残していますが、スペインが他のヨーロッパ諸国に見られない独特の文化を築き上げた背景には、キリスト教文化のみならず、多くの文化が交流したためと言われています。

華やかなオリンピックが、たとえ、商業主義と批判されても、かつて東京オリンピックを契機として、日本の国際社会における地位と現在の発展のスタートとなったように、バルセロナオリンピックもまたスペインの人々の努力の結晶であり、今後のスペインのさらなる発展が期待されます。

「鉄と鋼」がこの分野における魅力的な会誌となる為には、単一文化ではなく広い文化交流を可能にする場となることも大事ではないかと思えます。その為に、編集に携わる先生方、事務局と協力して、少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。

(Y. U.)